

特集

Major Articles

地域包括ケア にむけた 教育ってなに？

厚生労働省が2025年を目途に、
高齢者が可能な限り住み慣れた地域で自立し、
自分らしい暮らしを人生の最期まで
続けることができるようにするという、
地域包括ケアシステムの構築を推進しています。
まだまだ定義も概念もあいまいではありますが、
今後、施設から地域へ医療の現場もシフトすることが、
より一層求められることは間違いないでしょう。
長年、卒後は病院勤務を念頭に置いた
教育がされてきた看護教育においては、
発想の転換が必要となります。
もともと地域看護や在宅看護の学びを
充実させてきた教育機関も少なくないでしょうが、
それを教える先生方の準備はいかがでしょうか。
外部講師に頼るだけでは、地域包括ケアに
むけた教育は不十分かもしれません。
今回は、話題にはなるものの、
学校・大学や教員がいかに取り組むかはまだ
模索中である地域包括ケアにむけた教育について、
さまざまな立場からご意見を述べていただきます。
患者を施設から地域に帰したはいいが、
それで「看護」と無関係になってしまうことがないよう、
基礎教育の時点から対応を考えてみてください。